

# 平成21年度 宮城県リスクコミュニケーションモデル事業 実施結果（概要）

## 【 積水ハウス株式会社 東北工場 】

宮城県環境生活部環境対策課

### 1 はじめに

化学物質は、私たちの日常生活を維持するために欠かすことのできない存在となっていますが、一方、化学物質が人や動植物に悪影響を及ぼすレベルにならないよう適切な管理や取扱いが行われなければなりません。

事業者による化学物質の適正管理と排出削減も重要ですが、より合理的に環境リスクを管理し削減するためには、住民、事業者、行政が化学物質に関する情報を共有し、意見交換を通じて意思疎通と相互理解を図る「リスクコミュニケーション」の取組が有効です。

宮城県では、県内のより多くの地域及び事業者においてリスクコミュニケーションの取組が行われることを目指し、普及啓発と取組支援のためにモデル事業を開催しました。

### 2 開催概要

- (1) 事業者 積水ハウス株式会社 東北工場  
所在地：加美郡色麻町大原8
- (2) 日時 平成21年10月20日（火）  
午後1時35分～午後4時45分

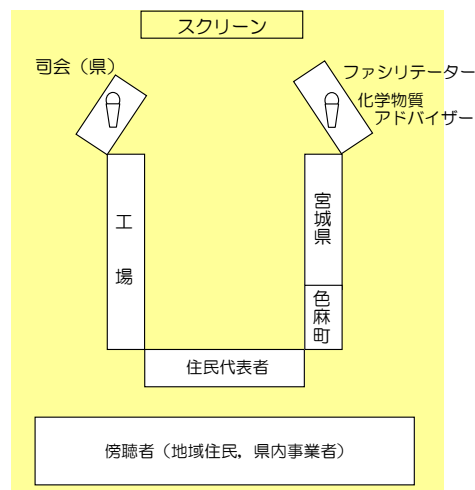


(会場風景)

### 3 出席者 合計26名

- (1) 参加者 計16名
- 住民代表者 2名（北大村地区、南大村地区）
  - 工場 7名
  - 色麻町 1名
  - 宮城県 4名
  - ファシリテーター 1名
  - 化学物質アドバイザー 1名

- (2) 傍聴者 計10名
- 住民 3名
  - 県内事業者 6名
  - その他 1名



(会場イメージ図)

### 4 プログラム

- ・開会あいさつ
  - ・化学物質に関する講演 (化学物質アドバイザー)
  - ・宮城県における化学物質の排出状況等について (宮城県環境生活部環境対策課)
  - ・企業紹介
  - ・工場見学
  - ・工場の環境への取組について
  - ・意見交換会
- (積水ハウス株式会社東北工場)

## 5 意見交換会の主な内容

(1) 今は少なくなってきましたが、関連工場から黒い煙が出ていることがあると、地区の方から聞いていますが。

→<工場> 協力会社に管理方法を確認したところ、年1回のダイオキシンの検査を行っており、その測定結果は基準値内に収まっているとのことでした。燃やしているのは無垢材の端材と合板だけで、ダイオキシンについては問題ないのですが、朝の立ち上げ時と昼休み後の再運転の時に黒い煙が出てしまう状況です。

→<県> ダイオキシンに関しては焼却炉の規模等さまざまな条件によって規制が定められています。また、測定は数時間かけてサンプリングした煙を分析するものです。ただ、今問題となっている黒い煙とダイオキシンは別の観点から考えなければならないと思います。

→<化学物質アドバイザー> 焼却炉はどうしても燃え始めは炉の温度が低いために不完全燃焼になります。燃やしているものが木材だけということで、黒い煙は主に炭素であると考えられ、普通は人体に影響を及ぼすものではないと思います。

(2) 工場の放流水が入る川の水の色が少し変わっていたり、川底に藻が生えてぬるぬるしているという苦情がありますが。また、放流は常時行っているのですか。

→<工場> 工場の排水は24時間処理しており、調整池の堰から出る分が川に流れています。水の色は工場の管理では問題なかったのですが、今後監視の目を光らせていきます。また、工場では放流地点まで確認していますが、もう少し下流であれば、連絡いただければすぐ一緒に確認させていただき対応を考えられるかと思っておりますので、御協力いただければありがたいです。

(3) 工場に出入りするトラックや通勤車の運転マナーや道路へのゴミのポイ捨てが気になります。また、周辺の田んぼに工場の資材が飛ばされてくることがあります。

→<工場> 運転マナーについては、輸送を委託している会社のトラックにはデジタルタコグラフを取り付けて監視しています。また、従業員の運転マナーについては、住民の方から苦情を頂くこともありまして、年2回の交通安全講習会や周辺道路でのマナーチェックなど工夫を怠りなく行っており、教育を行っています。

(4) 化学物質を保管・使用しているとのことですが、自然災害による外部への漏洩を防ぐ観点から、工場の建物の耐震強度などはどうなっていますか。

→<工場> 工場では、これまで天災によって化学物質が漏洩したことはありませんが、塩酸や苛性ソーダとかいった薬品のタンクの外側には防液堤を設置しており、タンクが破損したとしても工場の外には出ない仕組みとなっています。耐震強度については、建築の専門家ではございませんが、分かる範囲では、耐震とは異なりますが、多雪のこの地域で1mの積雪に耐えうる強度と聞いております。詳しくは、お調べして別途ご報告させていただきますと思います。

(5) 溶接や塗装の工程から化学物質がどの程度排出されているか測定していますか。

→<工場> 塗装工程のトルエンに関しては作業環境測定を行っていますが、化学物質の排

出量としての測定は実施しておりません。

(6) 協力会社との環境管理の取り決め、管理指導、監査等はどうなっていますか。また、ISOの対応はどうなっていますか。

→<工場> 協力会社とは月1回連絡協議会を設けており、その中で指摘等を行っています。品質管理に関しては、品質管理部で定期的に指導を行っています。

<ファシリテーターから>

今日は初めてということと、大変短い時間の中で十分に意見交換しきれなかったこともあったかと思いますが、それでも話し合いの中でかなりの成果があったのではないかと感じています。今後もこうした話し合いを進めていくことで、少しずつお互いにより関係を築いていくことができ、地域の安心に繋がっていくのではないかと考えます。

なお、耐震強度については、工場から、今後分かった段階で回答する旨のお話がありましたので、よろしくお願いたします。

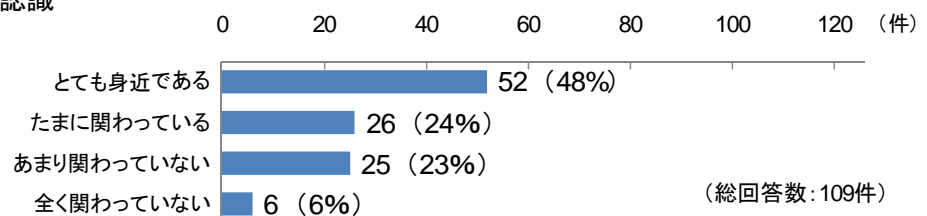
6 住民アンケート（事前）

リスクコミュニケーションの開催に先立ち、色麻町の御協力をいただいて工場周辺地区（北大村地区、南大村地区、大原地区）の住民の皆様を対象として、工場の化学物質管理等に関するアンケート調査を実施しました。

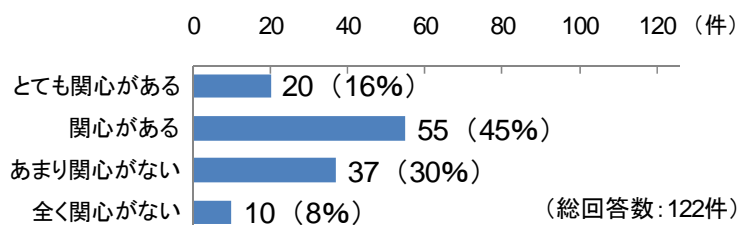
■回答状況

地区	世帯数	回収数	回収率		世帯数	回収数	回収率
南大村	76	30	39.5%	合 計	319	126	39.5%
北大村	112	54	48.2%				
大原	131	42	32.1%				

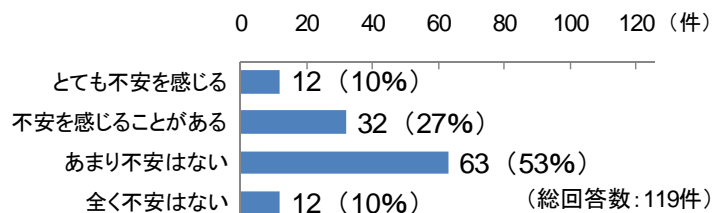
■化学物質についての認識



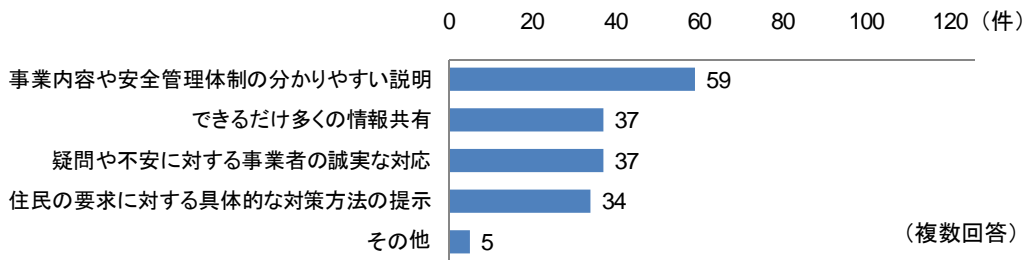
■工場で取り扱う化学物質への関心



■工場で取り扱う化学物質への不安



## ■ リスクコミュニケーションに期待すること



なお、集計結果の詳細は[こちら \(住民アンケート集計結果\)](#) を御覧ください。

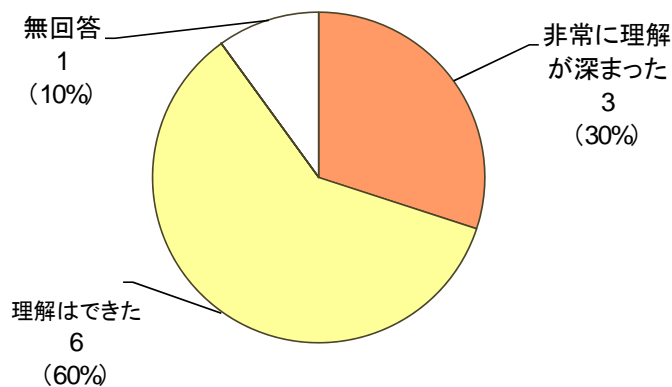
## 7 参加者・傍聴者アンケート (開催後)

リスクコミュニケーションの開催後、出席された住民代表者と傍聴者（地域住民，県内事業者）を対象として，アンケート調査を実施し，感想や御意見を頂きました。

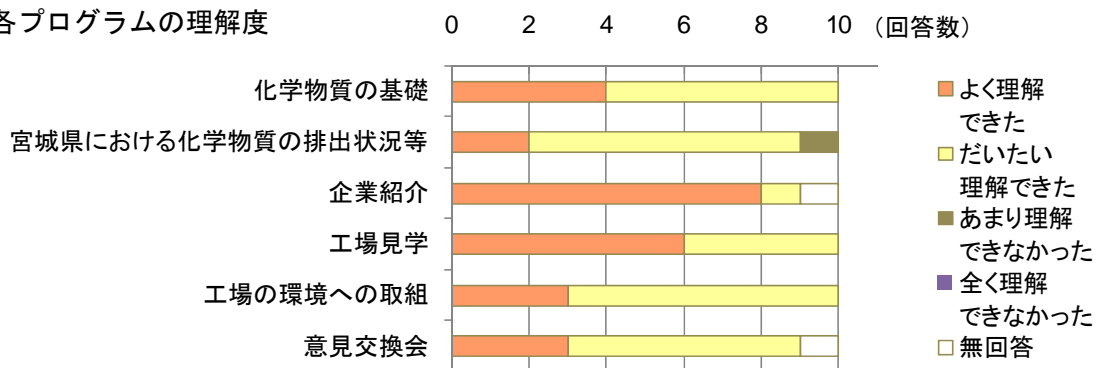
### ■ 回答状況

	配布数	回収数	回収率	区分	回収数	構成比
合計	11	10	90.9%	地域住民	4	40%
				県内事業者	6	60%

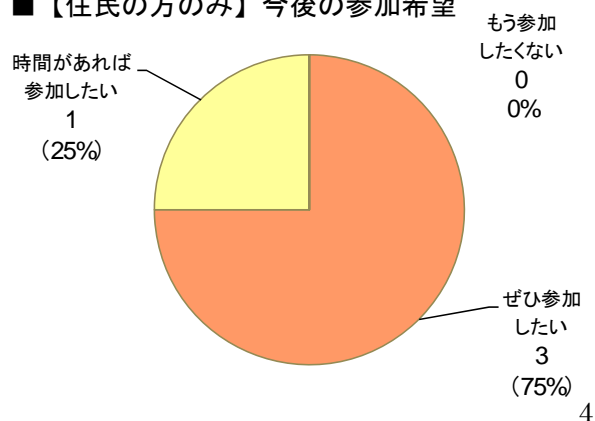
### ■ 工場の化学物質管理に対する理解度



### ■ 各プログラムの理解度

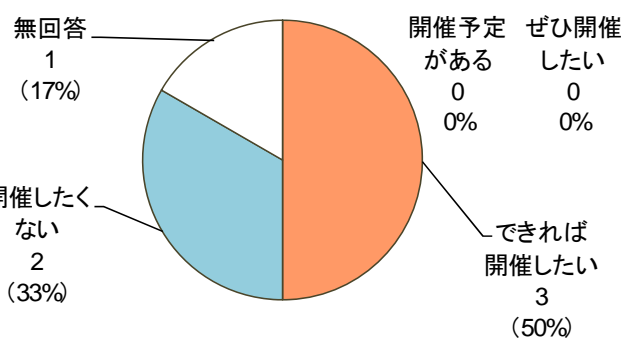


### ■ 【住民の方のみ】 今後の参加希望

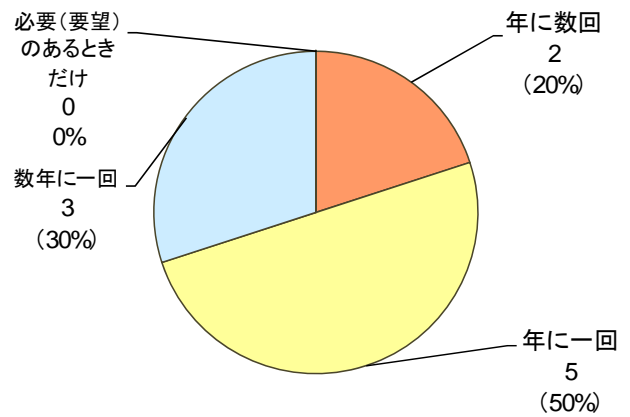


### ■ 【事業者の方のみ】

#### 自社でのリスクコミュニケーションの開催



## ■ リスクコミュニケーションの適切な開催頻度



なお、集計結果の詳細は[こちら\(参加者・傍聴者アンケート集計結果\)](#)を御覧ください。

## 8 まとめ

積水ハウス株式会社東北工場では、以前から納涼会等を通して周辺住民との交流を行ってききましたが、今回初めて、県のモデル事業としてリスクコミュニケーションに取り組みました。

準備に当たっては、色麻町には事前アンケートや参加住民の選定、工場には説明資料や会場設営等の御協力をいただくとともに、台風による日程変更にも快く対応していただきました。

事前アンケートでは健康や環境に関わる内容の御意見を数多く頂き、工場に対する住民の関心の高さが明らかになった一方で、具体的な事業内容や環境対策について十分に知られていないこと等、これまで工場や行政が知ることのできなかった住民の生の意見に触れました。

開催当日は、化学物質アドバイザーの分かりやすくかみ砕いた説明や、意見交換でのファシリテーターの的確な司会進行と工場の丁寧で誠意ある対応により、充実したコミュニケーションを行うことができました。

また、工場では通常業務として工場見学を受け入れているため担当者の経験が豊富で、見学ルートのご案内や説明など非常にスムーズに実施されていた点も印象的でした。

今後、工場による継続的かつ自主的な取り組みを進めていただき、工場と地域の相互理解を深めながら地域との共生を実現されることを期待しています。

## 9 協力

モデル事業の開催に当たっては、化学物質アドバイザー事務局の御協力をいただき、化学物質アドバイザー及びファシリテーターの派遣を受けて開催されました。

なお、開催内容については、同事務局でも「対話事例」が作成され、ホームページ( <http://www.env.go.jp/chemi/communication/taiwa/index.html> )で公表されることとなっています。